



—— 座 談 会 ——

# 防災ネットワークを 企業間で強化するために

【出席】

中西 利枝氏

Acote FP office / 代表  
〔災害時ココイコMAPプロジェクトリーダー〕  
(副代表理事・高松第1支部)

松本 秀應氏

松本建設(株) / 代表取締役  
(高松第8支部)

【司会】

渡辺 康平氏

photo. DTP. Movie.yasuhira / 代表  
(広報・情報化委員会 副委員長・高松第8支部)

女性委員会からスタートした「災害時ココイコMAP」。今は香川同友会全体の取り組みに。そして活動の輪は広がっています。

**司会** 本日は「防災ネット

ワークを企業間で強化するために」をテーマに関係するお二人にお集まりいただきました。早速ですが、ひとりでも多くの会員企業に防災に関する知識を持ってもらうために「災害時ココイコMAP」の活動に取り組み中西さんから、活動への思いについてお話を伺いたいと思います。

**中西** 「災害時ココイコMAP」は、大災害時に、家族や自社を自分たちで守る、そして自分たちの地域も自分たちで守るということを目標として、災害時に備える企業を増やしていく活動を行っています。2025年5月に500社の参加を目指しています。

香川同友会には約1600社の会員企業が所属しておりますが、日本で災害が一番

少ない県と言われているように、災害への危機意識も薄く、他県に比べても、災害時の備え、企業間の横の連携ができていないという話をよく聞きます。

もともと「ココイコMAP」は女性委員会の例会からスタートしました。災害は起こってしまってから、想定していない問題やトラブルが多発し、特に子供や女性、高齢者や障がい者など、弱い立場の人たちは苦難となることが想定されます。女性の立場から子供や弱者を守る意識づけの活動を行っていましたが、実際実現しようとする、皆さんの人の力が必要なんです。なので、現在は香川同友会全体での取り組みになりました。

香川同友会の会員企業が県内に約1600社あるので、一社一社が準備し、いざというときに迅速に連携をするならば、助かる命も増えるはずなんです。「災害時ココイコMAP」の活動を生きたものにす

るためには、災害時のために必要な備蓄をしてもらい、限りある公助の力を借りずとも自立できる、少しでも早く通常の営業を再開できる、そんな企業づくりをしてもらいたいと考えています。

また、その上で余力があれば、いざという時に地域のためにも力を貸していただける会員企業を募っているというのが現状です。

**司会** ありがとうございます。ではここで松本さんのご紹介をさせていただきます。松本さん、簡単にプロフィールをお願いします。

**松本** はい。私、父親が始めた松本建設を4年ほど前に事業承継していますが、その前はかつての建設省、現在の国土交通省で34年間勤務し、その後、香川大学で防災危機管理の専門家養成プログラムの事務局的な役割を担わせてもらいました。香川大学で新しいプログラムを始めるにあたって、行政で災害対応の経験が

ある人をとということ、定年前の早期退職で香川大学に勤務するようになりました。

建設省での最初の職場は土木研究所の地震防災部で、大地震の際の道路や川の堤防の崩壊に対する諸々の研究がスタートでした。退職までの間に日本海中部地震、阪神淡路大震災、そして東日本大震災のときには四国勤務だったので、四国から被災地に応援を送るための調整の役割、防災の要のような立場の仕事でした。その後も台風や地震による各地の被害を経験しましたが、常に次は自分たちのところの番かもしれないという思いで現場に向かい出ていました。

災害時、知識がないと人は助かりませんが、知識だけでも助かりません。知識が判断や行動に繋がって初めて命が救え、被害を小さく抑えることができます。ですから、

この「災害時ココイコMAP」をこれからどう広げていけばいいのか。あるいは香川同友会の取り組みの事業継続力強化計画の作成の取り組みも、それぞれのメリットやその繋がりを上手く伝えていく必要があります。話を聞くだけで終わらず、次の行動や判断のために少しでも役立ち、それぞれの取り組みの後押しが必要ではないかと受け止めます。

実際に災害が発生したとき、会社を守るには社員が守られなければいけませんし、社員が仕事をするためには家族や親戚が被害に遭っていると災害対応や業務に落ち着いて取り組めません。最

も大切なことはまず自分の命と家族の命、身の回りの人たちの命です。命が丈夫なら次のアクションが起きますが、怪我人や行方不明者がいると何もできません。

ですからそうならないために、そして生き残れたときには「災害時ココイコMAP」の情報が生きてきます。「災害時ココイコMAP」は、災害発生後のイメージができた人にはとても有難い資料になると思います。

「災害時ココイコMAP」には日常とは異なるいろんな役



松本 秀應氏

割があり、地域にいるからこそ接点を持てる中小企業であり地域の会社としてその機能を期待されているところがあると思います。

「災害時ココイCOMAP」は、**自社企業が今できること、ほんの少しの手助けを待っています。**

**司会** たしかにそうですね。そのためには「災害時ココイCOMAP」の課題でもある防災意識の浸透、危機感を持ち、災害時に自社は何をするか、何ができるかを真剣に考え行動してもらおうための意識の高まりがなければなりません。そのためには何をしなければ

ならないと考えますか。  
**中西** そうなんです。

一昨年より、いろんな支部例会で「災害時ココイCOMAP」の活動を発信させていただきました。

く機会をいただきました。おかげで会員企業の皆さんは活動の中身を少しずつ理解してくれているのかなと感じています。

しかし、まだまだ私たちの啓蒙活動が行き届かず、わかりにくいというご意見もいただいています。

大事なのは、「災害時ココイCOMAP」へ登録することであり、備えを見直すということです。家族、社員さんを守れ

中西利枝氏

るだけの備えをしているか？  
備えを確実にし、持続可能な強い企業を増やしていく。これが私たちの現在の目標のひとつですが、先ほどの松本さんのお話のように、自社や社員、その家族を守りたいというのを誰しもが考えていると思います。

先日、南海トラフ地震臨時情報が出ましたが、おそらくあのときも一体何から始めればいいのか、初めて意識された方も多いのではないかと思います。そんな方たちのためにも、災害時ココイCOMAPプロジェクトメンバーでは、BCPのチェックリストをつくっています。これを見るだけでも、自社に、ご家庭にな

にが必要で何が足りないか  
チェックできるようになっていきます。チェックして備えをすれば登録完了

なんです。もしかしたら、何かをしなければ登録はできないとか、登録していても、何をすればいいのかからないうなので、今後は、登録企業の皆さんにも、わかりやすくシールなどを配布するとか、わかりやすくもしていきたいです。そして、そんな完璧に備えなくても、少し備蓄をす



るだけでも実際にはぜんぜん違います。

例えば、備えの中のペットボトルの水1ケースだけでも、これは、災害時に地域に提供してもよいと思ってくださるなら、それに「災害時ココイコMAP」のシールを貼って、いざというときに「ココイコ用」とわかるようにしておいてくれるだけでも、地域のことまで考えてくれる企業さんは、信頼できるよい企業さんだと思います。

**司会** 具体例ですが、例えばペットボトル1ケースでもいいわけですね。

**中西** はい、そうです。沢山じゃなくてもいいです。トイ



「災害時ココイコMAP」のシール



レットペーパーとかでもいいですし、「災害時ココイコMAP」のシールを貼っていたら、これは「ココイコ用」ですよというのがわかるようにしてもらいます。本当にそれだけでいいんです。

**司会** 松本さん、中西さんたちの取り組みに対してアドバースがあればお願いします。

**松本** たぶん大多数の登録会員さんが、自社の取り組みの外にお金をかけて保管場所を確保し、地域のために頑張るのが「災害時ココイコMAP」の活動だと思われているところが多分にあるように思えます。ですか

ら、例えば、震度6クラスの地震が発生したとき、あなたのお店は開けていますか、それとも閉めますか、そういうとき経営者として自分はお店や会社をどう動かすのか、自社が持っている資材や商品を困っている人たちに販売し続けられるかどうか。そういうことを社員さんと一緒に悩んでもらうといいのではな

いかと思います。自社の身の丈の中に既にあるものが、実は地域の支援になることを知ってもらうための活動が今は大切なような気がします。  
**司会** まさにそうですね。意識を変えてもらう必要性と、意識を変

えながら行動を変えてもらうためにはどうすればよいか、とくに「絆」について松本さんお願いします。

**松本** そうですね。それについては東日本大震災の語り部の方を、香川のNPOの方が高松に呼び取り組みをされていたとき「これから来るであろう大地震に備えるために、四国の私たちにメッセージを頂けませんか」とお願い



渡辺康平氏

したら、その方は「私たちは東日本大震災が起きてから、絆を強くつくっていききました。でも皆さんは起きること予めわかつているし時間があるのですから、今日から、絆を準備していけるわけです。ぜひ、絆を強くしてください」と言われました。

私はその言葉、言い方を変えれば、あの被災地の状況をあなたたちは見たでしょう。見た以上は責任があると思います。見て知ったのに必ず来るであろう大災害に対して何もせずに、「あつ、父ちゃん殺してしようた」とか、「子どもにひもじい思いをさせてしまった」というのは、親である経営者であれ、見た責任は果たしなさいよというメッセージのような気がします。

**司会** ありがとうございます。とてもいいヒントをいただきました。絆については、私たちは同友会の組織として既に連携できるものが存在しています。ただ、それを

認識する思いというか意識がないわけです。そのために何ができるかだと思えます。

絆は阪神淡路大震災に始まり、各地で災害が起きる度に唱えられてきましたが、同友会ならではの絆の在り方を作り、活用できればと思います。

最後に中西さん、改めて「災害時ココイコMAP」の現状についても一度聞かせてください。

**中西** 正直なところ活動はあまり進んでいないのが現状です。松本さんのお話しにもありました、「災害時ココイコMAP」の重要さは誰もが理解しています。会社や社員を守らなければいけないことも同様です。悲しいことにそれらがややもすると後回しになりがちで、なかなか自分のこととして受け止めてもらえないところがあります。

ただ、自分自身のことを振り返ると、プロジェクトリーダーを引き受けるまでは防災

に対する意識は皆無に近く、災害時の備えなど全く念頭にありませんでした。それが、取り組みが進むうちに意識が変わり、今は防災士の資格取得をはじめ、小さなことで様々なことに取り組んでいます。ですから、私のように気付いたときに小さなことからでも取り組んでいくことができます。私がそうでしたから。

同友会活動の中での取り組みの最終目標はやはり地域になります。高松の他に東讃、西讃、小豆島それぞれの地域で、それぞれの支部長が指示を出すような形に考えていますが、高松の場合は支部が多いので高松協議会が発足予定ですが、そこでリーダーを決めてもらいそこで絆を強く強くしていくことになります。

このように防災に関しては今後、地域での取り組み、そちらの方向に進むことになるので、時間はかかっていますが、少しずつ進んでいけたら

と考えています。

**司会** ありがとうございます。中西さんからは、「災害時ココイコMAP」のこれまでの取り組みと現状について、松本さんからは災害のプロとしての立場から貴重なアドバイスをいただきました。近い将来間違いなく起こると言われる南海トラフ大地震のために、今我々は何をしなければならぬかを改めて考えさせられました。

中西さんたちの「災害時ココイコMAP」の取り組みが、同友会の会員さんたちに浸透し、活動の輪が広がることを願っています。本日は本当にありがとうございます。

【メディアで紹介されました】

NHK高松  
かがわWEB特集  
災害時の物資不足備え  
香川県で企業の新たなネットワーク作り  
(2024年1月17日掲載)

瀬戸内海放送  
企業などが持つ支援物資を地図で共有  
「災害時ココイコMAP」  
香川【こつこつ防災】

RNC  
news every. [every.みんなの防災]  
企業が連携防災マップ  
(2023/2/2放送)